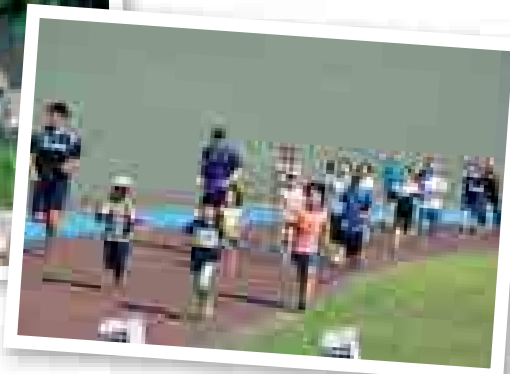


全県かけ唄大会&じんじゃず

六郷の熊野神社境内を会場に、8月22日に「じんじゃず」、8月23日に「全県かけ唄大会」がそれぞれ開催されました。

22日のじんじゃずでは、町内外から集まった演奏者の皆さんが素晴らしい音色を披露し、訪れた観客たちは神社という普段とは違う幽玄な雰囲気の中で音楽を楽しみました。

23日に行われた全県かけ唄大会は今年で64回目となり、10名の唄い手が歌声と掛け合いの妙を披露しました。大会の審査は「唄の上手さ」と「文句の出来」の両方で行われ、白熱した戦いは深夜まで続き、審査の結果、中川原信一さん（横手市）が3年連続で最優秀賞を受賞しました。



いきいきスポーツ健康のまち 美郷町チャレンジ健康マラソン

9月3日、美郷町自転車競技場をメイン会場として、チャレンジ健康マラソンが開催されました。

レースではなく健康づくりを目的としたこのマラソンはウォーク&ランコース(約3km)とファミリー&チャレンジコース(約5km)の2つのコースが用意されています。

当日は小さな子どもから大人まで99人の参加者が集まり、各々のペースで全員が完走し、気持ちのいい汗を流していました。

秋田の元気を美郷から 美郷カレッジ

9月3日、宿泊交流館ワクアスを会場に美郷カレッジが開催されました。

今年度2回目となる今回は小説家である西木正明さんを講師に招き、「あえてガラパゴスを目指そう」のテーマで行われました。

タイトルの「ガラパゴス」について、西木先生は、最近ガラパゴスという言葉にあまり良くないイメージがついてしまっているが、独特なもの、そこにしかないものを指して「ガラパゴス諸島」みたいだと例えるのであって、本来は真逆な意味だと語られ、西木先生の最近の仕事の話などを交えながら、ガラパゴスを目指すとはどういうことかを学びました。



金澤八幡宮祭典協賛 後三年秋の陣in金澤

9月11日、道の駅雁の里せんなんを会場に、後三年秋の陣in金澤が開催されました。

当日は、清原紅連隊による演武、菖蒲太鼓保存会や美郷ジャズオーケストラによる演奏に始まり、早かご競争やチャンバラ大会など、合戦にちなんだイベントで会場が盛り上がりしました。



日本代表として活躍

藤井新悟選手がリオパラリンピックに出場

9月7日から9月18日の期間で開催されたリオデジャネイロパラリンピック車いすバスケットボール競技に美郷町出身の藤井新悟さんが出場しました。

初戦が行われた9月9日、美郷町公民館にてパブリックビューイングが行われ、早朝にも関わらずたくさんの方が集まり、スクリーンに映し出された藤井選手に声援を送りました。



ご長寿おめでとうございます 角田タッさんが満100歳に

9月15日、満100歳の誕生日を迎えられた角田タッさんのもとに佐々木副町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。

当日は、ご家族や施設の利用者の皆さんが角田さんを祝福しました。

元々病弱だったとのことですが、特に大きな病気や入院は無く過ごしてきたという角田さん、旧六郷町では民生児童委員として活躍されました。

角田さん、これからも元気で過ごしてください。



美郷カレッジにて
あいさつをする松田町長

コラム 風

「過程の大切さ」

美郷町長 松田知己

基本的に私は何でも読む乱読です。しかし推理小説から本格的読書に入ったためかその類が好きで、書店では推理小説を探す時間が長いように思います。その推理小説、面白さは何と言っても最後の種明かしですが、「ビックリ仰天！」もあれば「やっぱりな〜」もあります。共通するのはその過程に必ず結末に至る種があること。「あの場面がそういうことだったのか」

なんて思わせるところが面白い訳ですが、改めて「過程の大切さ」を考えさせられるところですね。

その過程の大切さ、例えば仕事や人間関係など物語性のある事柄には、すべて共通だろうと思えます。なぜその結果に至ったのか、それを一定の確かさで理解するには過程を把握することが必要で、裏返して言えば、過程を把握していれば結果についてある程度正確に理解や認識できる可能性が高くなる、ということだろうと思えます。そして物語性の高い分野の一つである芸術についても、もちろんその例に倣う（なま）らうと思えます。作品の制作過程を知っているからこそ完成作品に対する見方が深くなる、あるいは幅広い視点で理解することができる、ということがあると私は思っております。

その芸術作品に関し、今月下旬から来月上旬にかけて、制作過程を見られるプロジェクトが美郷中学校で展開されます。東京日本橋東ロータリークラブ様から寄贈される絵画が、中学校体育館の壁面に制作されるからです。大小島真木さんという画家が美郷町に滞在しながら作品を仕上げるもので、生徒は制作過程を最初から最後まで見ることが出来ます。得難い機会です。生徒には意義ある機会になることを期待しております。過程を見ることの大切さ、それぞれの感性で受け止めて何かを考えてもらいたいと思えます。

この取り組み、できればみなさんにも見てもらいたいと思いますが、どうしても授業への影響を考えないといけません。そこで制作途中に1回、完成後に1回の計2回、鑑賞機会を設けます。是非とも足を運んでいただき、両方ご覧いただきたいと思えます。その比較の中に、きっと面白さ倍増の種、ありますので！